

企画展  
Museum Collection Exhibition

組み合わせを  
楽しもう!

# ついでに見る絵画



## Paintings Created as Sets

2020年1月9日(木)～2月11日(火・祝) 根津美術館 NEZU MUSEUM

東洋の絵画には、二幅対や三幅対など、複数の掛幅からなる対幅とよばれる形式や、右隻と左隻で1双となる屏風など、〈対〉で成り立つ作品が数多くあります。中国では偶数の対幅が通例ですが、日本では二幅対の間に仏画の三尊像の中尊に見立てた中幅を組み合わせた三幅対の形式が独自の発展をとげました。対幅は全体としてだけでなく、単幅や異なる組み合わせでも鑑賞できる性質をもっています。場所や用途に応じて、さまざまな飾り方が可能なのです。そのため、伝来の途中で四幅対が2幅ずつに分割されたり、あるいは逆に別々の作品が組み合わされて対幅に仕立てられるということもおこりました。制作者が構成した対幅か、所蔵者が組み合わせた対幅か、それによって作品の意味は大きく異なってくるはずですが。

この展覧会では、14世紀から19世紀にかけて日本および中国で制作された「〈対〉で見る絵画」を展示し、各幅・各隻相互の連続性や独立性、対比のおもしろさや全体の完結性など、もともとの形であるかどうかをも含めて、その見どころの多様さをお楽しみいただきます。

合わせて、鐺・目貫・縁頭などの刀装金具に表された対の図様の、機知に富んだ取りあわせにもぜひご注目ください。

根津美術館  
NEZUMUSEUM

上: 梟鶏図 狩野山雪筆 日本・江戸時代 17世紀  
下: 吉野龍田図屏風 日本・江戸時代 17世紀 いずれも根津美術館蔵

<http://www.nezu-muse.or.jp>



展示室1・2 企画展 「〈対〉<sup>ついで</sup>で見る絵画」

モチーフの対比が  
楽しい。



極端に湾曲した松の枝にとまる夜行性の梟と、竹を背景に画面を斜めに走る屋根の上で朝を告げる鶏。それぞれの眼の表情がおもしろい。左右の幅で、構図やモチーフにさまざまな対比をしかけ、対の関係を強調している。

きょうけいず かのおうさんせつ  
梟鶏図 狩野山雪筆  
2幅 紙本墨画淡彩  
日本・江戸時代 17世紀  
根津美術館蔵



中国古代、堯から帝位を譲ろうといわれた高潔な隠者・許由は穢れたことを聞いたと潁水で耳を洗い、巢父はそんな水を牛に飲ませることはできないと牽き帰した。2人の主人公を二幅対に描く。

きょゆうそうほ ず もういん  
許由巢父図「輞隠」印  
2幅 紙本墨画  
日本・室町時代 16世紀  
東京国立博物館蔵



向かって右隻に画面いっぱいに枝を伸ばした満開の桜の古木を、左隻に錦のごとく紅葉した楓の大木を配し、それぞれの枝に翻る短冊に桜・紅葉を詠んだ古歌を書く。春と秋、吉野と龍田という異なる季節と名所が対比されている。

吉野龍田図屏風  
6曲1双  
紙本金地着色  
日本・江戸時代 17世紀  
根津美術館蔵



龍虎は四神のうちの東と西の方角を司る靈獣だが、実力の伯仲するライバルのたえとして戦国武将や禅僧の間で好まれ、しばしば1双の屏風や二幅対の掛物に描かれた。

りゅうこずびょうぶ  
龍虎図屏風  
せつぜんしゅうけい  
雪村周継筆  
6曲1双  
紙本墨画  
日本・室町時代 16世紀  
根津美術館蔵



真ん中がえらい  
三幅対。

たいこうぼうかちようず  
太公望花鳥図  
ようげつ  
楊月筆  
3幅 紙本墨画  
日本・室町時代  
15世紀  
根津美術館蔵

ほとけや仙人や伝説上の人物を中心に、左右に花鳥や山水を配した三幅対はわが国独特の形式で、室町時代以降流行した。本尊と脇侍という仏画の三尊形式を踏襲したものと考えられる。

組み合わせは  
自在に。



じゆるうしきざんすいず  
寿老四季山水図  
池大雅筆  
5幅 紙本墨画淡彩  
日本・江戸時代  
宝暦11年(1761)  
出光美術館蔵

寿老に四季の景を組み合わせた五幅対。五幅対としてはもちろん、春夏・秋冬、あるいは春秋・夏冬の各2幅の中心に寿老図を置いた三幅対としても楽しめるよう企図されている。

## 同時開催展

## 展示室5 百椿図に寄せて 一子年にちなんで

江戸初期の椿ブームを背景に成立した「百椿図」。  
2020年の干支である子(鼠)が描かれていることから、  
鼠をモチーフにした作品とともに展示します。



ひやくちんず  
百椿図  
伝 狩野山楽筆  
紙本着色 2巻  
日本・江戸時代 17世紀  
根津美術館蔵  
茂木克己氏寄贈

地に落ちた椿の花に群れる野鼠。儒者・林鶯峰が作った漢詩も鼠を詠み込む。さまざまな種類の椿の絵と文芸の融合も「百椿図」の見どころ。

## 展示室6 初月の茶会

茶の湯では、一年の最初の月、めでたい道具を取り合わせ、新しい年の訪れを寿ぎます。華やかな慶賀の茶道具約20件をご覧ください。



重要文化財  
きんらんて ぼたん からくさもんはないれ  
金欄手牡丹唐草文花入  
景德鎮窯 金欄手  
1口  
中国・明時代 16世紀  
根津美術館蔵

「金欄手」とは金彩を上絵付したやきものこと。その華やかさから、吉祥の茶道具として喜ばれる。本作は堂々とした下膨れの姿が珍しい逸品。

## 関連プログラム

## 講演会

「屏風 一繋げる画面・比べる画面一」

日時 1月25日(土) 午後2時～3時30分

講師 榎原 悟氏(岡崎市美術博物館 館長)

会場 根津美術館講堂 定員130名

## (申し込み方法)

当館ホームページの「イベント情報」の申込みフォームから、または往復はがき(1参加者1イベントにつき1枚)に参加を希望されるイベント名・住所・氏名(返信面にも)・電話番号を明記の上、〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1 「根津美術館講演会係宛」

にお送りください。

※12月18日(水)、午前10時より受付開始(往復はがきは当日の消印より有効)。

※先着順で定員になり次第締め切らせていただきます。

スライドレクチャー  
(事前申込不要)

日時 1月17日(金)、1月31日(金)  
いずれも午後2時から45分程度

講師 松原 茂(当館 学芸部長)

会場 根津美術館講堂 定員各回130名

担当学芸員が展示の見どころをスライドを用いて解説いたします。

内容は、2回とも同じです。事前申し込み不要。開始の15分前に開場。

特別催事1  
(事前申込不要)

「茶室で楽しむ椿のころー『百椿図』に寄せてー」

いけばな草月流 勅使河原 茜 家元

2020年1月24日(金)～1月26日(日)

午前10時から午後4時まで

ただし26日(日)は午後3時まで

※開催する茶室は、決まり次第、HP等でお知らせします。

※観覧は無料ですが、入館料をお支払いください。

特別催事2  
(事前申込制・先着順・有料)

「根津青山をしのんでー80年忌追善茶会ー」

2020年2月6日(木)

※詳細は決まり次第、HP等でお知らせします。

## 開催概要

展覧会名	企画展 〈対〉で見る絵画
主催	根津美術館
開催期間	2020年1月9日(木)～2月11日(火・祝)
開館時間	午前10時～午後5時(入館は閉館30分前まで)
休館日	毎週月曜日(ただし1/13は開館し、1/14は休館)
入館料	一般 1100円(900円) 学生 800円(600円) ※( )内は20名以上の団体料金、障害者手帳提示者及び同伴者1名の料金。中学生以下は無料。
前売券	一般 900円 学生 600円 ※2019年11月16日(土)～12月23日(月) 特別展「江戸の茶の湯」開催期間中、当館ミュージアムショップにて販売
アクセス	地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線(表参道)駅下車 A5出口(階段)より徒歩8分、B4出口(階段とエスカレーター)より徒歩10分、B3出口(エレベータまたはエスカレーター)より徒歩10分
住所	〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1
お問合せ	Tel. 03-3400-2536 (代表) website <a href="http://www.nezu-muse.or.jp">http://www.nezu-muse.or.jp</a>

記者内覧会のご案内 2020年1月8日(水) 午後1時30分～3時(予定) ご案内ご希望の方は、当館広報課へご連絡ください。

## 次回展

## 特別展

## 「虎屋のおひなさま」

2020年2月22日(土)～3月29日(日)



虎屋 14代黒川光景(1871～1957)が長女のためにそろえた雛人形や雛道具。愛らしく精巧な品々を、新出作品も加えて一堂に並べ、ご紹介いたします。

男雛・女雛 京都・丸屋大木平蔵製  
日本・明治時代 19世紀  
株式会社虎屋蔵  
こひつぎれ

同時開催: 展示室5 「宮中の雅 -古筆切と和歌-

展示室6 「花時の茶事」

<リリース・広報のお問い合わせ>

根津美術館 広報課: 所, 村岡 TEL: 03-3400-2538 (直) E-mail: [press@nezu-muse.or.jp](mailto:press@nezu-muse.or.jp)

※本資料掲載の内容は、予告なく変更になる場合がございます。最新の情報はお問い合わせください。(2019.10)